お茶の間学 II

生活特報部 FAX 092 (711) 9056 メール seikatsu@nishinippon-np.jp

森林をつくろう 脊振の地から 9

新・木造の家コンペ

佐藤和歌子

多くの皆さんのご指導の末にスタートを切った事業の正式名称は「『新・木造の家』設計コンペ」。

日本の木造建築技術の継承や林業の活性化を見据えた木材利用につなぐことを大切にしながらも、斬新なアイデアとデザインを求めたいと思い「新」という文字を入れました。木造の住宅と聞くと、開放感はあるのだけれど、どこか古めかしく暗いイメージで語られてしまうことが多いように感じたからです。

対象は「建築を学ぶ学生」に限定しました。設計のプロにも範囲を広げれば、きっと今すぐにでも建てられる完成度の高い作品がたくさん提案されるでしょう。でも、私たちの目的は、大学教育において木造建築を学ぶ機会の少なさへの問題提起にあります。

さらにこのコンペは、木材の特性や日本の森林や林業にまで幅広い知識を持った設計者を、将来にわたって育成するプログラムとして位置付けていました。それに木造について、いい意味で知識の少ない学生だからこその意外性にも期待していました。

また、受賞した作品の中から1点を選び、施主を公募して実際に建てることにもチャレンジしました。もちろん作品のままというわけではありません。専門家の指導の下、敷地や家族構成に応じて修正することにはなりますが、木造についての知識以外に、現場を見る機会も少ない学生に職人さんの技術に触れ、その神髄を体感してもらう機会を与えたかったのです。

学生たちに参加を呼びかけた2008年の第4回ポスター

作品は、京都大学の鈴木祥之名誉教授を委員長に、大学の研究者や現役の建築士などで構成する委員会で審査。書類審査と本人による作品のプレゼンテーション審査の2段階で、いわゆる「伝統構法」で設計された住宅になっているか、学生らしい斬新なアイデアかなどの視点で、最優秀賞と優秀賞、林野庁長官賞、瓦屋根優秀賞などの各賞を選ぶことにしました。

副賞は、最優秀賞30万円、その他の賞5万円。でも、後から聞くと、学生にとっての最大の魅力は、賞金の多寡より実際に施工されたり、木造に携わるさまざまな職種の人たちと実際に関わり合えたりすることにあったそうです。

2005年6月、建築学部のある全国の大学、専門学校に向けてポスターを送付。ようやく募集を開始しました。さてさて何人が応募してくれるか。不安の中でのスタートでした。

（NPO法人「森林をつくろう」理事長、佐賀県神埼市）